

1 バックジュツ

2 生薬の性状の項を次のように改める。

3 生薬の性状

4 1) 和バックジュツ 本品の周皮を除いたものは不整塊状又
5 は不規則に屈曲した円柱状を呈し、長さ3～8 cm、径2～3
6 cmである。外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰
7 褐色である。周皮を付けているものは外面は灰褐色で、しば
8 しば結節状に隆起し、粗いしわがある。折りにくく、折面は
9 繊維性である。本品の横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物に
10 による細点がある。

11 本品は特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

12 本品の横切片を鏡検（5.01）するとき、周皮には石細胞層
13 を伴い、皮部の柔組織中にはしばしば師部の外側に接して繊
14 維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を
15 含む油室がある。木部には大きい髓を囲んで放射状に配列し
16 た道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髓及び放射組織中
17 には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの結晶
18 及びシュウ酸カルシウムの小針晶を含む。

19 2) 唐バックジュツ 本品は不整に肥大した塊状を呈し、長
20 さ4～8 cm、径2～5 cmで外面は灰黄色～暗褐色を呈し、と
21 ころどころにこぶ状の小突起がある。折りにくく、破碎面は
22 淡褐色～暗褐色で、木部の繊維性が著しい。

23 本品は特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にわず
24 かに苦い。

25 本品の横切片を鏡検（5.01）するとき、周皮は石細胞層を
26 伴い、通例、皮部には繊維を欠き、師部放射組織及びその末
27 端部には黄褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい
28 髓を囲んで放射状に配列した道管とそれを囲む著しい繊維束
29 がある。髓及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔
30 組織中にはイヌリンの結晶及びシュウ酸カルシウムの小針晶
31 を含む。

32

33